

キモチが動いたら、  
まずは相談から。

## 里山暮らし相談会

参加費  
無料

農村定住促進コーディネーターが里山暮らしに関する疑問、  
新規就農や移住に関する相談におこたえます。

各相談会の日程や申し込みについては「神戸・里山暮らしのすすめ」でご確認ください。

<http://kobe-satoyama.jp/>



実際に、北区の  
里山エリアで!

### 里山暮らし相談会 in 淡河宿本陣跡

開催地: 淡河宿本陣跡  
交通: 「道の駅淡河」から徒歩 2~3分。  
淡河宿本陣跡にも専用無料駐車場があります。  
神姫バス「三宮」から「淡河本町北」バス停下車すぐ。  
(バスの便数が少ないので、事前にご確認ください。)



おでかけついでに、  
神戸ワイナリーで!

### 里山暮らし相談会 in 神戸ワイナリー (農業公園)

開催地: 神戸ワイナリー内会議室  
交通: 山陽道・神戸淡路鳴門自動車道  
「神戸西インター」より西へ約10分  
神戸市営地下鉄西神中央駅より  
神姫バス20、27、80系統



上記のほか、イベントや区役所等での相談会も開催しています。  
開催日時や場所等の詳細は「神戸・里山暮らしのすすめ」ホームページより  
ご確認ください。  
オンライン(ZOOMなど)でのご相談も可能です。  
農村地域での起業をお考えの方は、関係法令や手続きの手順を  
お答えする「ワンストップ相談窓口」へお問い合わせください。  
※右記HPより要予約



里山暮らし相談会



移住・起業ワンストップ相談窓口

農村地域の  
空き家のご活用  
(売りたい・貸したい)  
に関するご相談は  
こちら!

神戸市経済観光局農政計画課 〒651-0087 神戸市中央区御幸通6-1-12 三宮ビル東館3階

一般財団法人神戸農政公社 〒651-2204 神戸市西区押部谷町高和1557-1 電話: 078-991-1557

※インタビューの内容は取材時の情報です。

23.7.25

# KOBE 里山 Livin'



神戸・里山暮らしハンドブック

あなたも、神戸で、はじめよう。



神戸市



# 都市型の 里山だから、 暮らしやすい。

山と海に囲まれ、約151万人が暮らす神戸。北区・西区には、田園風景が広がる里山エリアがあります。里山エリアでは少子高齢化、農地の耕作放棄といった課題があり、移住を積極的に受け入れています。働き方や暮らし方が大きく変化した、いまの時代。都市部から里山エリアへの移住が注目されています。はじめての田舎暮らし、うまくできるか不安を感じることも、きっとあるでしょう。でも、神戸の里山エリアなら大丈夫。都市部への通勤がしやすく、仕事を変えずに移住でき、市街地にも近いので、都会から移住しても不便を感じることはありません。さらに行政制度やサービス、教育が整っているのも大都市のなかにある里山だからこそその魅力です。自然に囲まれて暮らしてみる、農業やカフェをはじめしてみる。あなたも神戸で、都市型の里山暮らしをはじめませんか？

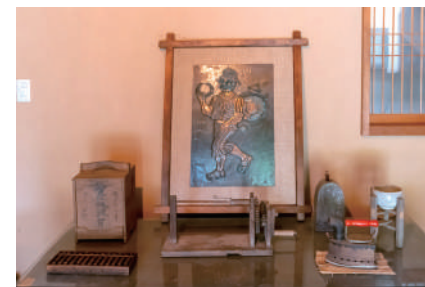




## 仕事を 変えずに 移住



在宅勤務で通勤がなくなったことで、時間を有効に使えるようになり、仕事も、生活も満足する日々。



古民家に残されていた古道具が並ぶ玄関。



自宅の庭には柑橘類が実る。



築推定100年の古民家。前の住人がリノベーションし、そのまま移り住む。

## 仕事のために住む場所を犠牲にする必要なんてないと思います。

小西 慶太さん（会社員）



灘区の会社で、システムエンジニアとして働いています。移住するまでは繁華街が近い兵庫区の新開地に住んでいました。妻が四国出身だったこともあり、子育てをするなら自然に囲まれた環境でいたいと考えていました。上の子が生まれて、1LDKの賃貸マンションが手狭になり、里山暮らしをしようと決意。西区や北区の里山エリアなら通勤ができると思い、物件を探していたところ、いまの家と出会いました。築100年の家ですが、大学時代は建築学科で、古民家に住んでみたことから、移住を決めました。通勤はまず、

自宅から車で神戸電鉄「五社駅」へ。そこから谷上で地下鉄北神線に乗り換え、さらに三宮からJR神戸線で灘まで片道1時間かけて通っています。通勤時間は長くなりましたが、自分の時間も増え、気持ちに余裕ができるようになりました。電車では自己学習のために本を読むなど、時間を有効活用するように心がけています。コロナ禍のいまは、テレワークで仕事をしています。どうしても人と会わなければいけない時もありますが、それ以外は通勤していません。システムエンジニアという仕事柄、ネット環境さえあればどこでもできるのも、

仕事を変えずに移住できた理由のひとつだと思います。WEB会議で、海外の人と関わりながら進めるプロジェクトをしているのですが、里山エリアに住んでいてもグローバルに仕事ができることを実感する毎日です。最初は正直、不便になるのではないかと考えていましたが、住んでみると、コンビニは車で行けばいいし、買いだめもするようになる。里山での暮らしになれると、以前の生活と比較しなくなりました。仕事と家庭どちらにも満足できている、いまの生活は、ここに移住しなければ手に入らなかったと思います。

### わたしのHowto移住メモ 家族、地域の皆さんの理解があってこそ移住です。

移住するにあたっては、親や親戚を説得するのに苦労しました。でも、過疎地域で暮らすわけではなく、神戸市内の里山エリアで、利便性もいいことを伝えることで理解してもらえました。わたしたちの暮らしている淡河町は、はじめて来た時は「ここは、ほんとに神戸？」と思うくらい、とてもロケーションのいい場所です。

車と電車を使えば、必要な時は都会に出ることもできる、とても便利な地域です。移住にも積極的で、自分たちから関わり、つながることをしようとすれば、地域の人たちはフレンドリーに受け入れてくれます。もしここに来て、住みたいと思ったら、農村のコミュニティに入って行くことを前提に、住むかどうかを決めてみてください。





仕事の始まりは毎朝6時。昼間は休憩したり、出かけたしながら、午後から日が暮れるまで農作業は続く。

## 農業は一生勉強。 できた! という、ことがないのが おもしろさです。 石野 武さん(農業)



秋に旬を迎える黒枝豆。



季節を感じながら暮らす農家の生活。

以前は乗馬のインストラクターとして働いていました。そこで妻と知り合い、結婚。妻が西区の出身で、もともと農業に興味があり、いつかは農業をしたいと話合っていました。子どもができたらしなと考えていたのですが、一生できる仕事に就きたかったこと、食への関心が高まったことから、やるなら20代のいましかない一念発起。もうまくいかなくても30代でリカバーすることもできるという考えもあり、新規就農することを決意しました。どこで就農するか悩みましたが、妻の実家がある神戸を選びました。当初は北区で畑を借りていましたが、いまは西区でラディッシュや黒枝豆など約30品目の野菜を有機栽培で育てています。西区に移ったのは、農村定住促進コーディネーターの大皿さんに出会い、売り先のことについてアドバイスや紹介をもらったことがきっかけです。

農業を始めてから、せっかく野菜をつくるならカラダにいいものを栽培したいと模索していくなかで、農業や化学肥料を使わない有機栽培を知りました。野菜の栄養は土から吸収されるので、土作りが大切です。わたしの畑では魚粉、あぶらかす、米ぬか、石灰などを発酵させたボカシ肥料を使っています。いろんな人に野菜を知ってもらいたいという想いから、最近では西区の有機農家グループ「ピオクリエイターズ」にも参加しています。作付け費用として野菜代金を先払いしていただき、あとから定期的に野菜を受け取っていただく、新しい購入方法「CSA FARM-SHARE」に取り組んでいます。将来は研修生を受け入れることで、農園を大きくしたいと思っています。あと今年はコロナ禍のために芋掘りしかできませんでしたが、子どもたちの未来のためになにかできることをしたいです。



1日の仕事を終わると、畑からすぐの自宅へ。



野菜や苗を育てるビニールハウス。

### わたしの Howto 移住メモ 農業も、きちんと準備をし、計画を立ててはじめましょう。

農業もビジネスですから、始めるためには資金は必要です。わたしの場合は、はじめは妻の実家で暮らしたり、アルバイトをしたりすることで、金銭面を抑えました。また神戸市で新規就農をするためには1200時間の研修を受け、10アール以上の畑を持つことが条件になります。またわたしの場合、西区の「楽農生活センター」という農業体験・実践を

支援する拠点で野菜のつくり方を学び、農業法人でのインターンシップを経験。ひと通りの仕事を覚えたら、今度は知り合いの農家さんのもとで研修生として働きました。農家は野菜を買ってくれる方、生産者仲間、近隣の皆さんといったさまざまな人と関わる仕事です。そういった周りの人たちとのつながりは、作物より大切にしています。



子育ての  
ために  
移住



友人の建築家に依頼して  
リノベーションした自宅。  
リビングには家族の笑顔  
が集まる。

わたしの How to 移住メモ

都市型の里山だからこそ、入りやすさがあります。

仕事柄いろいろな里山や農村地域に行きましたが、地域の皆さんの程よい距離感が大沢町の魅力だと思います。もちろん住宅街に暮らしていた時と比べると、近所の付き合い方に違いはありますが、神戸市内の里山なので外へ働きに出ている方も多く、閉鎖的な集落ではありません。いい意味で世話焼きな方も多いため、子どもがいることもありすぐに打ち解けることができたのがよかったです。神戸近郊からの移住なら仕事も、付き合いも変わらずできることも大きなポイント。息子の元同級生ファミリーは、畑仕事の手伝いや遊びによく来てくれます。コミュニティに入りやすい分、移住した集落の10年後、20年後も考えて主体的に行動できる人に来てもらえたらうれしいです。



山も、畑も、子どもたちの遊び場に。



移住することで増えた、親子の時間。

里山暮らしで、  
子どもたちが  
じぶんでできることが  
増えました。

石田 篤さん(会社員)



もともとは長野で農村体験や山や川のガイドをしていました。その後、大阪の豊中市にある会社で有機野菜の流通に携わる仕事をしています。結婚をして子どもが生まれ、以前から将来的には里山で暮らしたいと考えていたため、移住先を探していました。大沢町に来た時、田畑の畦(あぜ)が綺麗に手入れされていることに感銘を受けました。仕事柄、全国の生産地に行きますが、畔草刈りは地域の方々の景観意識がとてもよくわかるポイントで野菜や米の栽培だけでなく地域景観についても考えている方々が暮らしていると感じ、この地域に興味を持ちました。また市街化調整区域に指定されているので現状の景観や村の風景が大きく変わらないこと、時間はかかりましたが望んでいたイメージの物件と巡り会えたことから移住を決めました。子どもはふたりで、息子が7歳、娘が5歳です。息子が通う小学校は車で10分、夫婦で送り

そのぶん学年関係なく全校生徒で遊べるのが魅力です。また、小さな学校なので統廃合で廃校になることが心配でしたが、隣の新興住宅地の子どものたちも通える制度を地域と神戸市とで取り決めたことも大きかったです。子どもたちは家の中だけではなく、裏山や畑も遊び場にしています。ここに来て自分たちで遊ぶということを覚え、天日干しに使う稲木も稲を脱穀した後は息子の鉄棒になっていますし、自宅で飼っている烏骨鶏の世話や畑では野菜や柿の収穫も手伝ってくれます。農具をさわったり、薪を割って自分で焚き火をしたりすることも里山移住をしたから出来たことだと思います。ここで暮らしだして、ものを買うのではなく、できるだけ自分たちでつくったり、工夫したりする生活をしています。それは子どもたちにも影響を与えていて、余った木材を使っておもちゃを作ったり、森の中へ冒険に出かけたりしている姿を見た時、里山暮らしを選んでよかったと思いました。



お手伝いも、子どもたちから積極的に。



仕事の  
ために  
移住



前日にひとりで仕込む  
ベーグル。季節限定もあ  
わせ、常時10種類ほど  
をラインナップ。



マイペースで、  
好きな仕事に没頭する。  
古民家との出会いが  
かなえてくれました。 村上 敦隆さん(自営業)



もともとは西宮の山口町に住んでいました。カフェやベーカリーで勤めたあと、独立。最初は米粉の蒸しパンだけをつくっていましたが、自分の製パン技術をいかし、誰もが食べられるシンプルなパンをつくりたいと思うようになり、たまご、乳を使わない小麦のベーグルをはじめました。当時は店舗を構えず、住んでいたハイツの一室でネット販売やイベント販売をしていました。家族が4人になり、新居を探していたところ、知り合いに「淡河町に古民家があるよ」と紹介されました。見学した時、茅葺き屋根に一目

惚れて、移住を決めました。当初は、自宅を店にするつもりはありませんでした。でも、飲食業は不規則な仕事で、家族といる時間が少なく、まだ幼かった上の子が、わたしの顔を忘れることがありました。せつかくなら、古民家をいかして自宅で働こうと思い、店を開きました。店は木・金・土曜の10時から16時まで営業。1日ベーグル200個、米粉パン100個を前の日の夕方から翌朝までひとりで作り、そのあと妻とスタッフが販売接客してくれています。大変ですが好きなことに没頭できるので、充実しています。ふたり

の息子も家の中を走り回り、自然にふれ、のびのび育っています。ここに来て、季節や時間の流れを感じる生活ができるようになりました。霜がはる、カエルや鳥の声が聞こえる毎日は、自然の中で生きていることを実感できます。店舗自宅のこの家は築230年で、重要文化財に指定されています。茅葺き屋根は30年に1回補修が必要で、メンテナンス費用もかかりますが、ベーグルを買いに来てくれるお客さん、田んぼを貸している若い人や地域の人たちなど、いろいろな人が集えることが財産だと思っています。



このロケーションとベーグルを求めて、遠方からもお客さんが訪れる。



お店を切り盛りする奥さま。

**わたしの Howto 移住メモ** 相談できる、教えてもらえる人に出会うことが大切です。

家は農地とセットで売られていて、農業の資格を持っていないと購入できず、裏に住んでいるおじさんにいろいろ助けていただきました。ほかにも地域の付き合いや、冠婚葬祭のマナーなど、知らないことばかりで、里山暮らしは周りに助けてもらわないとできません。わたしたちは地縁もない他所からきた家族で、コミュニティに入れてもらう立

場です。だから地域の集まりには必ず参加し、子どもたちにも近所の人に出会ったら挨拶するよう言い聞かせていました。地元の人たちと積極的に関わることは、コミュニティで暮らすという意思表示。いまでは、息子たちは村の子どものように見られるようになりました。その距離感がとてもうれしかったですし、安心して子育てすることができています。



# そもそも、里山って、神戸のどこに？

神戸の里山エリアは、北区・西区にあります。

## 北区

六甲山の北側に位置しており、神戸市9区のなかで1番広い北区。山々に囲まれ、昔懐かしい田園風景をいまに残す農村地域が数多くあり、茅葺き屋根の民家もたくさん現存しています。農業では米をはじめ、野菜、花、酪農のほか、芋掘りやイチゴ狩りなどの観光農業や貸し農園も盛んに行われています。

## 西区

住宅街と田園地帯が広がる西区。ニュータウンの建設や区画整理事業によって、市内で1番の人口を誇り、農家の数も9区のなかで1番多く、耕地面積も最大です。稲作のほか、都心近郊の農業地域としての特色をいかした園芸・畜産などの農業が盛んに行われており、観光農園や直売所が数多くあります。

- 凡例
- 北区里山ゾーン
  - 西区里山ゾーン
  - 市街地ゾーン
  - + 大型病院
  - M 大型ショッピングセンター
  - 道 道の駅
  - 区役所出張所

市街地への通勤  
三宮のビジネスエリアには  
車で **約40分**

岡場から  
三宮まで(神戸電鉄+地下鉄)  
電車で **約35分**

西神中央から  
三宮まで(地下鉄)  
電車で **約35分**

動画でチェック!  
神戸の里山風景




<https://youtu.be/JuNI-o3pQQg>





# 移住を決める！その前に知ってください。

## 移住までのステップ

移住するまでの流れです。(大切なのは、現地の人とつながること!)

### STEP.1

#### 移住の目的を確認する

移住は人生を変える大きな決断です。「なぜ移住したいか」を一度きちんと整理しましょう。農家をめざす、子育てのためになど、目的とビジョンを明確にしましょう。

### STEP.2

#### 家族やパートナーと相談する

家族やパートナーと移住を考える場合は、同意や協力が不可欠です。なぜ里山暮らしをしたいのか、将来のこと、暮らし方や仕事などについて、事前に話しておきましょう。

### STEP.3

#### 必要な情報を集める

神戸市内で開催される「里山暮らし相談会」を訪れて相談しましょう。ポータルサイト「神戸・里山暮らしのすすめ」にも、情報が載っています。遠方の方はオンラインでの相談も可能です。

### STEP.4

POINT  
想いをしっかり伝えよう!

#### 現地の人と知り合う

「里山暮らし相談会」で、農村定住促進コーディネーターと知り合しましょう。里山の住民でもあるコーディネーターに思いの丈をぶつけることで、あなたが思う移住をサポートしてもらえます。

### STEP.5

POINT  
何度も行くことが大切!

#### 現地に通う

コーディネーターと知り合ったら、コミュニケーションを重ね、現地に足を運びましょう。地域の人に会う、里山に行くことで、わかることもあります。何度も訪れることがポイントです。

### STEP.6

#### 住まいを決めて移住する

住まいは神戸市の空き家バンクで探すことができます。また、現地に通い、地域の人たちと交流することも大切。そうすることで、理想の住まいを紹介してもらえることもあります。

#### まずは、里山暮らし相談会で会いましょう。

現地に暮らし、皆さんの移住のお手伝いをするわたしたちとお話ししましょう。どんな里山暮らしがしたいのか、あなたの想いを聞かせてください。実現するための情報、必要なサポートや人の紹介をします。里山暮らしは、農村のコミュニティに入ることです。自分たちはもちろん、わたしたちといっしょに地域の暮らしをよくしようと思って、来ていただける方をお待ちしています。

#### 農村定住促進コーディネーター



北区担当 鶴巻耕介 西区担当 大皿一寿  
「里山暮らし相談会」については裏表紙をご覧ください。

#### まずはお試しで、移住体験も可能です。 神戸の農村地域でのお試し移住

北区：ヌフ松森医院  
神戸市北区淡河町野瀬492  
西区：福住お試し住居  
神戸市西区押部谷町福住447  
各施設の詳細・ご予約はポータルサイト「神戸・里山暮らしのすすめ」から。



ヌフ松森医院



福住お試し住居

#### 里山移住 Q&A

#### Q 里山暮らしをしたことがないけど大丈夫？

大丈夫です。農村定住促進コーディネーターは地元住民なので、定住までのサポートや地域の方との顔つなぎなどをいたします。

#### Q 庭先で自給自足できる、小さな畑付の家はある？

条件を満たせば、空家とセットで1000㎡未満の農地の取得が可能です。対象の物件については空家バンクをご確認いただくか、農村定住促進コーディネーターにご相談ください。

#### Q 移住してほしいのは、どんな人？

里山エリアは児童数減少や耕作放棄地の増加が問題になっているため、子育て世代や新規就農者、新しい仕事を生み出す方にぜひお越しいただきたいです。

#### Q 飲食店などの起業はできる？

里山エリアは開発規制がある「市街化調整区域」ですが、一部規制緩和も広がっています。地域の同意が必要な場合もあるので、農村定住促進コーディネーターに一度ご相談ください。

#### Q 地域の役回りなどはある？

里山の景観や防災は、住民自らが担っています。そのため、消防団への加入や、年に数回行われる町内全域の保全活動などの役回りがあります。

#### Q セカンドハウスとしての購入や賃貸はOK？

移住の受け入れは、農村地域維持が目的です。原則として定住していただく方を条件としています。

#### 住民の声

#### お互いに存在を認め、助け合いながら暮らしましょう。

いちばん求めているのは農業をしたい方ですが、将来的にしてもいいという方も大歓迎です。皆さんの移住に対する想いや街での暮らしも教えてほしいですが、わたしたちが守ってきた地域の文化や習わしも理解していただければと思っています。たとえば、神社や祭りの世話、溝そうじや草刈りといった地域の役回りには積極的に参加して、自治会にも入りましょう。このような活動を通じてお互い顔を覚えることで、助け合うこともできますし、情報交換にもなると思います。お互いに存在を認め合えば、あなたが里山でしたいことを農村の人たちは全力で応援し、手伝ってくれるはずですよ。あなたの夢を語り合しましょう。



奥井重紘さん(西区)



# 都市だからこそその制度も、里山ならではの教育も。

子育て 子育て世帯・若年夫婦世帯の賃貸住宅の住居費を

最大 **35** 万円補助

**神戸市子育て応援賃貸住宅住み替え補助**

主な要件 (令和5年度) 未就学のお子様がいる子育て世帯または年齢合計が80歳以下の夫婦のみの世帯 / 耐震性を有する賃貸住宅等

お問い合わせ 下記住みかえーる HP のお問い合わせフォームより

子育て 子育て世帯・若年夫婦世帯の住宅取得を

最大 **95** 万円補助

**神戸市子育て応援住宅取得制度**

主な要件 (令和5年度) 中学生以下のお子様がいる子育て世帯または年齢合計が80歳以下の夫婦のみの世帯 / 耐震性を有する賃貸住宅 等

お問い合わせ 下記住みかえーる HP のお問い合わせフォームより

子育て その他の若年・子育て世帯が住み替える際の補助制度はこうべぐらし応援補助金『住みかえーる』のホームページをご確認ください。

こうべぐらし応援補助金

**住みかえーる**

お問い合わせはこちらのページのお問い合わせフォームより

子育て 農村地域の空家の改修費に

最大 **200** 万円補助

**里づくりの拠点施設等整備支援事業**

主な要件 空家バンク(神戸・里山暮らしのすすめHP)に登録されている空家の取得または賃貸等

お問い合わせ 一般財団法人 神戸農政公社 078-991-1557

仕事 農業を始めて経営が安定するまで最長3年間 年間最大

**150** 万円を支援

**経営開始資金(新規就農者育成総合対策)**

主な要件 (令和5年度) 独立・自営就農で、満50歳未満の認定新規就農者 / 世帯所得が600万円未満等

お問い合わせ 神戸市農業委員会事務局 078-984-0387

仕事 秋から半年間、さまざまなプログラムを通して、神戸の農村での**起業**をめざす

**神戸農村スタートアッププログラム**

受講料：60,000円(税込、振込手数料別)  
※現地ワークに向かう交通費等は別途必要です。交流会や食事等の費用は含まれておりません。

<https://kobenoson.jp/>

お問い合わせ 一般社団法人 神戸農村ラボ info@kobenoson.jp

## 教育 里山ならではの教育環境の充実にも、チカラをいれています。

近隣の幼稚園から中学校が連携して、12年間の教育をめざしています。  
神戸市立 淡河中学校



淡河町には淡河中学校、淡河小学校、好徳小学校、淡河好徳幼稚園があり、それぞれの教員が定期的集まって情報交換や機材の貸し借りをしています。合唱やスポーツ大会など、少人数ではできないことは合同で行うことで、互いに切磋琢磨しながら学ぶ機会をもつようになっています。また小さいころから外国人と交流する機会をもってもらうために、中学校

の外国人講師と英語の先生が小学校と幼稚園を訪問し、授業をする取り組みを行っています。少人数だからこそ、先生が生徒全員のことを知っていて、手厚い指導が受けられるようにしています。さらにふるさと学習の発表や地域の伝統芸能を文化祭で披露することで、地域の未来を考え、地域を知ることにもチカラをいれています。



ICTを活用した授業



幼稚園児と外国人講師の交流



伝統行事に生徒が参加

地域といっしょに、子どもたちの学習と、学校生活をサポートしています。  
神戸市立 山田小学校



山田小学校では、高学年を中心に、子どもたちがプリント課題をクリアしていきながら、算数を体系的に身につけるプログラムを実施。苦手意識のある問題に繰り返しチャレンジするなど、個々に合わせて学びを深めることをめざしています。また、山田には学童保育が無いため、地域のボランティアが子どもたちを預かる「どんぐり教室」が学内にあります。費用は無料で、

夏休みも8時半から19時まで。一時的な預かりも受け入れているので、共働き家庭でなくても利用することができます。もともと先生だったスタッフも多く、宿題だけでなく、漢字検定の学習にも取り組んでいます。山田小学校には、谷上・箕谷小学校校区内からも通学が可能になりました。住宅街に暮らしながら、里山地域でのびのびと学びませんか？



自然環境をいかした農業体験



地元の菊農家による課外授業



プリントを使った漢字検定の学習

※令和5年7月時点での情報です。



# 里山で仕事をはじめたい。そんな人のための 制度もあります。

地域の皆さんの理解があって、理想のカフェができました。



RAWZEN FARMS CAFE  
與那嶺 桂さん(調理師) 土田 洋平さん(店長)

里山にありながら、周辺の住宅地エリアから車で訪れる利用客で平日も賑わう、築130年の古民家をリノベーションしたカフェ。店内には、地元農家の野菜が並ぶ直売所も併設。今後は音楽家とのタイアップなど、文化発信の場所をめざしている。



## 農村定住起業制度

大阪市内で居酒屋を経営しているオーナーが、大家さんと知り合い、「実家が空いているけど、どう？」と声をかけてもらったことがきっかけでした。より生産地に近い場所で飲食店をしたかったことから、農村定住起業制度を利用して起業することを決意。制度の要件は、地域農産物の活用や景観への配慮などをしながら、集落を活性化させることだったので、“良い農場は良い食卓をつくる”をコンセプトに、築130年の

古民家を改装し、農村の野菜を使った料理を提供するカフェにしました。制度は移住も条件でしたので、わたしたちふたりが住み込みで働いています。制度を利用してよかったのは計画を立てるうえで、地域の皆さんと話や相談をする機会があり、コミュニティに入りやすかったこと。まだオープンしたばかりで農家の方としか交流していませんが、今後は地域の活性化や自治会などに積極的に参加したいと思っています。

はじめての農業でも、楽しみながら取り組むことができます。



中井 久雄さん

移住前は、インテリアショップの販売コーディネーターとして関西で勤務。前職で本当に豊かな生活を模索するなかで、安全な野菜を作りたいと思い、農業をはじめ。ブルーベリーやブラックベリーに加え、最近ではイチゴの栽培にも取り組む。



## 認定新規就農者(青年等就農計画制度)

農業をするならブルーベリーを育てたいと思い、つくり方を教えてくれる人が神戸にいたことから、八多町に暮らしはじめました。「認定新規就農者(青年等就農計画制度)」を利用することで、はじめての農業でも達成するべき目標を立てながら事業計画書を作成、色々なアドバイスを受けることができました。半年ごとに経過報告をするので振り返りができ、事業計画に改善点や追加事項を加えることができます。また「就農

促進コーディネーター事業」という制度も活用し、事業計画を実施するにあたって、地域の先輩農家へ紹介してもらい、足りないスキルを勉強しました。紹介してもらった農家さんとは、いまもつながっていて、情報交換などを行っています。制度以外には農業について学べる「兵庫楽農生活センター」もあります。まずは、つくりたい作物を見つける。それをつくっている人に会い、勉強に行くことから始めてみましょう。